

石原勇太郎の「Aus einem Winkel der Musikwissenschaft」第1回：ようこそ！音楽研究の世界へ！

雑司ヶ谷の鬼子母神堂と9月の夕日（大学院の研究室から）

第1回：ようこそ！音楽研究の世界へ！

ご専門は...？

初対面の方からこう聞かれることがとても多い。私のことをまだよく知らないので当然の質問でしょう。しかし、何を思ったのか、旧知の仲の方からも、ある時突然この質問をされることがあるのです。それも恐る恐る、「こいつ何者なんだ？」という懐疑を込めて...

さてどうしたものか...私、いつも困ってしまいます。

ありがたいことに作曲をさせていただくこともあり、ごく稀にコントラバスを弾いていることもある。はたまた今この原稿を書いているように、あたかもライターのようなことをしていたりも。

うーむ。ハイパーマルチミュージシャンとでも名乗ろうか...？それは怪しいな...

そんなおかしな考えが頭の中を駆け巡ります。

しかし、よくよく考えてみれば、悩む必要なんてないのです。なぜなら私には、迷わずに言うべき専門にしていることがあるのですから！

それでは私に、先程の質問をしてみてください！

「あなたの専門はなんですか？」

私はこう答えますよ！

「音楽学です！」

...

さてさて、多くの方はおそらく、

「...オンガクガク？」

頭の上に疑問符が浮かび上がるでしょう。安心してください！それは間違いなく一般的な反応です。「音楽学」は、音楽大学や専門学校で、あるいは個人で、楽器や作曲などを極めようと努めている若い方々にさえも、それがどのようなものなのか、ほとんど認知されていないのですから。

そんな謎めいた「音楽学」の世界の隅っこで、その道を志している私、石原勇太郎が、吹奏楽の世界で楽しく音楽生活を送っているWind Band Press読者の皆さんに、音楽学の世界の面白さをわずかでも知ってもらおうと、恐れ多くも始めさせていただくのが、この連載『Aus einem Winkel der Musikwissenschaft』すなわち「音楽学の片隅から」なのです！

とは言っても、今書いたように「音楽学の道を志している」私は、「志している」身であって、音楽学の世界ではまだまだひよっこ！スタート地点にやっと立っているようなもの。ですので、皆さんに「音楽とはこういうものだ！」というように、何かを講義することなんて、そんな大それたことは恐ろしくてとても出来やしません！しかし、音楽学の道を進む中で得た興味深い体験や考えなどなど、まだ音楽学の世界の片隅にいる、今の私だからこそ書くことのできることを、気軽に徒然とまとめてゆきたいと思うのです。

ほほう。なるほどなるほど。で、結局「音楽学」ってなに？

どこからか、そんな声が聞こえてきます。

「音楽学」とは、誤解を恐れず簡単に言ってしまうえば「音楽を学問的に追究する」研究の総称です。

作曲家は音楽作品を創り出し、演奏家や指揮者は音楽作品を演奏し、聴衆は音楽作品を聴くことで、音楽と深く関わっています。音楽学の世界を生きる人（一般的に音楽学者と呼ばれます）は、音楽作品 あるいは音楽そのものを研究対象とすることで、音楽と関わっています。

音楽学と一言で言っても、その中には本当に様々な領域が広がっています。

音楽の歴史的なことを専門に研究する音楽史学。音楽作品の分析や分析法そのものを専門に研究する音楽分析学。さらに音楽社会学、音楽心理学、音楽教育学、音響学などなど...挙げていてはキリがないほど多様な、音楽に関する研究をまとめて「音楽学」と呼んでいます。

皆さんが普段慣れ親しんでいる「吹奏楽」。この吹奏楽という編成も、吹奏楽のために作曲された作品も、立派な音楽のひとつですよ。しかし、それは音楽という宇宙の中にあるひとつの星座（吹奏楽座とでも名付けてみましょうか！）のようなもの。音楽という広い宇宙を見れば、西洋芸術音楽座、ジャズ座、世界音楽座、ポピュラー音楽座...個性的な形をした星座たちが輝い

ています。

そんな音楽という宇宙を、音楽学という名の天体望遠鏡を使って観測してみれば、それぞれの星座はもちろん、星座を形作るひとつひとつの星々の特徴（作曲家の人生や、作品の背景、分析などなど）までもが見えてきます。

なんだかワクワクしてきませんか？

そんなあなたは、もう音楽学の世界、すなわち音楽研究の世界に入る切符を手に入れています。「音楽に対する好奇心」それだけが音楽研究の世界へ入るために必要な唯一の資格。

まだ世界の片隅にいる私とともに、音楽学の世界をほんの少しだけ散歩してみましょう。

ようこそ！音楽研究の世界へ！

~ ~ ~ ~

本連載についてのご意見・ご感想は[公式サイト](#)

の「Contact」から、あるいは以下のメールアドレス宛にお願いいたします。

alla.arama.a.br@gmail.com

同じくWind Band Press上で連載していました「石原勇太郎の【演奏の引き立て役「曲目解説」の上手な書き方】」もよろしくお願いいたします！（[第1回の記事はコチラ](#)）

この記事の著作権は石原勇太郎氏に帰属します。

石原勇太郎氏 プロフィール

ある時は言葉を紡ぎ、またある時は音を紡ぐ音楽家見習い。東京音楽大学大学院修士課程音楽学研究領域修了。同大大学院博士後期課程（音楽学）在学中。専門はオーストリアの作曲家アントン・ブルックナーと、その音楽の分析。論文『A.ブルックナーの交響曲第9番の全体構造 未完の第4楽章と、その知

られざる機能 』（2016：東京音楽大学修士論文）『[A.ブルックナーの交響曲第8番の調計画 1887年稿と1890年稿の比較と分析を通して](#) 』など。

公式サイト：<https://www.yutaro-ishihara.info/>

Twitter ID：@y_ishihara06